

会計名		都市交通計画調査推進事業				担当部	都市整備部			
一般会計						担当課	都市交通課			
款	項					目	担当係	計画係		
8	4					1				
PLAN概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	都市環境							
		基本施策	道路・交通							
		施策の内容	総合交通対策の推進							
	目的	平成24年6月に策定した都市交通戦略を推進し、基本理念である「ひとと環境にやさしく、持続可能な都市交通体系」の構築を目指す。	主たる内容	都市交通戦略に掲げる施策の実施 ○幹線道路計画調査 ○交通課題の把握 ○公共施設連絡バスの運行状況調査 ○移動手段階適正化に向けた調査・検討						
	位置づけ	関連計画	刈谷市都市計画マスタープラン、刈谷市環境都市アクションプラン、衣浦定住自立圏共生ビジョン							
		根拠法令								
		対象者	対象者を限定せず	事業期間	平成24年度 ~ 平成42年度					
		実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他							
	B D O A 実 施 V	23年度実績		24年度実績		25年度実績		26年度計画		
				<ul style="list-style-type: none"> 刈谷市都市交通戦略策定 刈谷市都市交通戦略の国土交通大臣認定を受ける 刈谷市都市交通協議会開催 刈谷市都市交通戦略策定パネル展示会 自転車ネットワーク計画策定 		<ul style="list-style-type: none"> 刈谷市都市交通協議会開催 公共交通（バス交通）に関する調査 刈谷駅北口交通まちづくり基本構想策定 刈谷市都市交通戦略策定パネル展示会 		<ul style="list-style-type: none"> 刈谷市都市交通協議会開催 幹線道路にかかる調査・検討 公共交通（バス交通）に関する検討 刈谷駅北口交通まちづくり社会実験 ITSを活用した社会実験 		
成果 (できたこと)		<ul style="list-style-type: none"> 刈谷駅北口周辺の交通課題に対して、市民参加によるワークショップを開催し、検討を行なった。 公共交通（バス交通）の路線再編にあたり、中学校区毎に2回の地域懇談会を開催し、意見収集を行った。 定住自立圏を構成する知立市のコミュニティバスとの乗継地点の利便性向上のため、東刈谷北口バス停留所の上屋を整備した。 								
課題 (できなかったこと)		<ul style="list-style-type: none"> 総合交通対策を進めるために、市内企業と連携を図り、自動車移動の円滑化などの施策を検討すること。 ITSを活用し、市内の交通課題の解消に向けた取組みを検討すること。 								
指標名称（単位）			実績値			目標値				
			23年度	24年度	25年度	26年度	28年度			
活動指標	自動車以外の交通分担率（%）		—	24.4	—	26.0	26.6			
成果指標	車や自転車などで移動しやすい道路と思う市民の割合（%）		—	60.5	—	63.0	63.6			
他市との比較検証	・交通戦略は愛知県内8市町で策定されている。 （近隣市の自動車以外の交通分担率実績（第4次パーソントリップ調査（H13））： 刈谷市 39.3% 安城市 39.0% 豊田市 35.0% 小牧市 38.4% 岡崎市 43.4%） ・名古屋市、安城市では自転車ネットワーク計画に基づき、自転車通行空間の整備を行っている。									
C 事業 コスト	単位：千円		23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (予算)	25年度 事業費内訳			
	事業費 ①		0	3,909	10,045	39,657	合計	10,044,752 円		
	財源	特定財源	0	0	0	750	報償費	93,200 円		
		一般財源	0	3,909	10,045	38,907	旅費	33,080 円		
	職員人件費 ②		0	7,428	10,520	10,992	需用費	152,250 円		
	総事業費 (①+②)		0	11,337	20,565	50,649	委託料	6,804,000 円		
建設 事業	全体事業費（単位：千円）		0		25年度特定財源名称					
	25年度迄の累積事業費		0							
	27年度以降の事業費見込		0							

会計名			都市交通計画調査推進事業	担当部	都市整備部
一般会計				担当課	都市交通課
款	項	目		担当係	計画係
8	4	1			
C H E D C K ハ 評 価 V	各視点からの評価			評価の理由	
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法的業務 ・ 市民ニーズ、社会需要 ・ 市民生活上必要である など 		高い	地域活力の向上、防災・減災対策の推進、交通弱者が安心かつ安全に移動できる移動環境の確保など、交通を取り巻く環境は近年大きく変化している。 市民の安全で快適な移動環境を確保するために、総合交通体系の確立は必要不可欠であると考えられる。
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・ コストの節減、費用対効果 ・ 執行体制の効率性 ・ 手段の最適性 など 		普通	刈谷市都市交通戦略を推進するための組織として「都市交通課」が設置された。施策推進を手探りで進めている状況でもある。経費面、検討推進体制等今後改善する余地はあると考えられる。
	妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市が主体となって実施すべき事業であるか ・ 総合計画との整合性 など 		高い	総合交通対策の推進主体として、市民、企業、交通事業者、官公庁など多岐にわたっている。 総合計画でも重点施策のひとつと位置づけられており、市がコーディネーターとして積極的に調整推進役を担う必要があると考えている。
	施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施策への貢献度 ・ 目標達成度 ・ 市民サービスへの効果 など 		高い	様々な手段で移動できる交通環境が構築されることにより、市民サービスへの貢献度は高い。
	今後の方向性			<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 終期設定 <input type="checkbox"/> 休止・廃止	
総合交通対策の推進のため「刈谷市都市交通戦略」を平成24年6月に策定した。 計画の周知をはじめ、積極的な事業の展開を図り、総合交通対策の確立に向け努力する必要があると考えている。					

会計名			公共施設連絡バス運行管理事業	担当部	都市整備部
一般会計				担当課	都市交通課
款	項	目		担当係	運輸係
8	4	1			

PLAN概要 計画V	総合計画 施策体系	分野	都市環境			
		基本施策	道路・交通			
		施策の内容	公共交通の充実			
	目的	市内公共施設等を結ぶ連絡バスを委託運行し、公共施設利用の利便性の向上を目指すとともに、広く一般市民、特に交通弱者と言われる高齢者等の積極的社会参加と、渋滞緩和や環境負荷低減等の観点から、通勤通学の利用を促進する。	主たる内容	○運行路線 6路線（始発～終着） 東境線（刈谷ハウエイアス～ひまわり） 西境線（洲原温水プール～ひまわり） 小垣江線（小垣江駅東口～逢妻駅南口） 東刈谷線（半城土町大原～生きがいセンター） 一ツ木線（総合運動公園～市役所） 依佐美線（東刈谷駅北口～小垣江駅西口） ○運行回数 1日8往復（東境、西境、小垣江、東刈谷） 1日5往復（一ツ木、依佐美） ○利用料金 無料		
	位置づけ	関連計画		刈谷市都市交通戦略、環境都市アクションプラン、衣浦定住自立圏共生ビジョン		
		根拠法令		刈谷市公共施設連絡バス運行事業実施要綱		
		対象者	対象者を限定せず	事業期間	平成9年度～	
	実施方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他				

23年度実績		24年度実績		25年度実績		26年度計画	
総利用者数	532,787人	総利用者数	611,099人	総利用者数	652,833人	総利用者数	660,000人
運行路線別内訳		運行路線別内訳		運行路線別内訳			
東境線	128,673人	東境線	128,631人	東境線	131,850人		
西境線	139,605人	西境線	137,749人	西境線	142,800人		
小垣江線	142,422人	小垣江線	145,285人	小垣江線	159,480人		
東刈谷線	116,367人	東刈谷線	112,913人	東刈谷線	115,748人		
一ツ木線	2,684人	一ツ木線	42,111人	一ツ木線	49,349人		
依佐美線	3,036人	依佐美線	44,410人	依佐美線	53,606人		

B D O 実績	成果 (できたこと)	知立市及び安城市のコミュニティバスとの乗継拠点となる東刈谷駅北口バス停にバス停の屋根及びベンチを整備した。また、バス車両への有料広告掲載を希望する広告主を募集し、平成26年度より広告収入を得られる見込みとなった。
	課題 (できなかったこと)	路線の充実や増便により順調に利用者数を伸ばしてきたが、増便やバス停まで遠い地区への乗り入れの要望、バス停の屋根やベンチの設置要望に対し検討する必要がある。また、愛称の公募などを検討する必要がある。

指標名称（単位）		実績値			目標値	
		23年度	24年度	25年度	26年度	28年度
活動指標	利用者数（人）	532,787	611,099	652,833	660,000	670,000
指標						
他市との比較検証	近隣市では、規模の大小や有料・無料の違いはあるが、各団体がコミュニティバスを運行している。安城市 あんくるバス《10路線 利用料100円》、碧南市 くるくるバス《4路線 利用料無料》、知立市 ミニバス《5路線 利用料100円》、高浜市 いきいき号《5路線 利用料100円》					

単位：千円		23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (予算)	25年度 事業費内訳	
C 事業 コスト	事業費 ①	187,694	204,380	203,832	224,999	合計 203,832,328 円	
	財源	特定財源	0	0	0	500	需用費 869,337 円
		一般財源	187,694	204,380	203,832	224,499	役務費 56,000 円
		職員人件費 ②	4,307	8,135	8,065	8,427	委託料 199,556,441 円
	総事業費 (①+②)	192,001	212,515	211,897	233,426	使用料及び賃借料 463,050 円	
建設事業	全体事業費（単位：千円）	0		25年度特定財源名称		工事請負費 2,887,500 円	
	25年度迄の累積事業費	0					
	27年度以降の事業費見込	0					

会計名			公共施設連絡バス運行管理事業	担当部	都市整備部
一般会計				担当課	都市交通課
款	項	目		担当係	運輸係
8	4	1			
C H E D C K ハ 評 価 V	各視点からの評価			評価の理由	
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> 法的業務 市民ニーズ、社会需要 市民生活上必要である など 		高い	高齢者等の移動手段を確保し積極的な社会参加、渋滞緩和や環境負荷低減等の観点から、市民の移動環境の向上のためには不可欠と考えている。
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> コストの節減、費用対効果 執行体制の効率性 手段の最適性 など 		普通	利用者は年間61万人を超え、近隣市に比べても多くの方に利用していただいているという点では効果が大きいと考えられるが、経費面や運行形態等、今後改善できる余地は多いと考えられる。
	妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 市が主体となって実施すべき事業であるか 総合計画との整合性 など 		高い	総合計画では、将来のめざす姿として、環境にやさしい道路交通環境の形成や渋滞の減少などを掲げているとともに、市民の移動手段として公共施設連絡バスの充実を図っている。
	施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> 施策への貢献度 目標達成度 市民サービスへの効果 など 		普通	市民サービスへの効果は十分あると考えられるが、施策への貢献や目標の達成に向け、今後、運行形態等の改善を検討していく。
今後の方向性			<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 終期設定 <input type="checkbox"/> 休止・廃止		
都市計画マスタープランでは、歩いて暮らせる都市づくりに向け、鉄道やバスなどの公共交通が主体となったネットワーク形成を目指す記載されている。 また、利用者からは所要時間の短縮、増便やバス停まで遠い地区への乗り入れなどの要望もある。 鉄道・自転車との連携など公共交通ネットワーク構築に向けた検討を行い、公共交通（バス交通）の利便性向上を図る必要がある。					

会計名		名鉄富士松駅駅舎改修負担事業				担当部	都市整備部		
一般会計						担当課	都市交通課		
款	項					目	担当係	運輸係	
8	4					1			
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	都市環境						
		基本施策	道路・交通						
		施策の内容	公共交通の充実						
	目的	名鉄富士松駅の下りホーム側に駅舎改札口を新設し、駅利用者の安全性と利便性を向上させる。		主たる内容	下りホーム側に駅舎改札口を新設する。				
	位置づけ	関連計画 刈谷市都市交通戦略							
	根拠法令								
	対象者	対象者を特定せず		事業期間	平成24年度 ~ 平成25年度				
	実施方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他							
	BDO 事業実績 計画 実施 V	23年度実績		24年度実績		25年度実績		26年度計画	
		_____		<ul style="list-style-type: none"> ・通信工事 ・信号工事 		<ul style="list-style-type: none"> ・建築工事 ・土木工事 ・業務揭示工事 ・駅務機器工事 ・電路工事 ・通信工事 ・信号工事 		_____	
成果 (できたこと)		名古屋鉄道(株)と年度協定を取り交わし、駅舎建築工事を施行し、下りホーム側に駅舎改札口が完成した。							
課題 (できなかったこと)									
指標名称(単位)				実績値		目標値			
				23年度	24年度	25年度	26年度	28年度	
活動 指標		1日当たり平均利用者数(人)			2,425	2,500	2,640	2,772	—
指標									
他市との 比較検証									
C 事業 コスト		単位：千円		23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (予算)	25年度 事業費内訳	
	事業費 ①		0	26,080	242,360	0	合計 242,360,000 円		
	財 源	特定財源	0	0	0	0	負担金、補助及び 交付金 242,360,000 円		
		一般財源	0	26,080	242,360	0			
	職員人件費 ②		0	601	807	0			
	総事業費(①+②)		0	26,681	243,167	0			
	建設 事業	全体事業費(単位：千円)		0		25年度特定財源名称			
25年度迄の累積事業費		0							
27年度以降の事業費見込		0							

会計名			担当部	都市整備部		
一般会計			担当課	都市交通課		
款	項	目	担当係	運輸係		
8	4	1				
名鉄富士松駅駅舎改修負担事業			各視点からの評価			
			評価の理由			
			必要性	<ul style="list-style-type: none"> 法的業務 市民ニーズ、社会需要 市民生活上必要である など 高い	現在は、富士松駅上りホーム側のみ駅舎改札口があるが、エレベーターが未設置であり、下りホームへ向かうことができない。改札等を設置することにより、バリアフリー化が完了し、駅利用者の安全性、利便性を向上することができる。	
			効率性	<ul style="list-style-type: none"> コストの節減、費用対効果 執行体制の効率性 手段の最適性 など 高い	下りホーム側に改札口が新設されるため、利用者の安全性、利便性が向上し、快適に鉄道駅を利用できると考えられる。	
			妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 市が主体となって実施すべき事業であるか 総合計画との整合性 など 高い	総合計画では、公共交通の充実の施策として、バリアフリー化や安全対策の推進を掲げている。市民生活の利便性向上に資する事業であると考えている。	
施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> 施策への貢献度 目標達成度 市民サービスへの効果 など 高い	富士松駅のバリアフリー化が完了し、利用者の安全性、利便性が向上し、市民サービスへの効果は十分あると考えられる。				
今後の方向性			<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 終期設定 <input type="checkbox"/> 休止・廃止			
今後は、富士松駅周辺の整備の推進及び刈谷市公共施設連絡バスの利便性を高め公共交通の充実について検討していく。						

C
H
E
D
C
K
ハ
評
価
V

会計名		JR逢妻駅駅舎改修事業				担当部	都市整備部		
一般会計						担当課	都市交通課		
款	項					目	担当係	運輸係	
8	4					1			
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	都市環境						
		基本施策	道路・交通						
		施策の内容	公共交通の充実						
	目的	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律に基づき、1日平均利用者数が3,000人を越える駅は、平成32年までにバリアフリー化することが義務付けられた。そのため、JR逢妻駅にエレベータを設置し、利用者の利便性や安全性の向上を図る。	主たる内容	○南北の駅前広場から連絡通路につなぐエレベータ 2基設置 ○改札内から上下線ホームにつなぐエレベータ 2基設置 ○改札内に多目的トイレを新設					
	位置づけ	関連計画	刈谷市都市交通戦略						
		根拠法令	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、刈谷市補助金等交付規則						
		対象者	対象者を限定せず	事業期間	平成25年度 ~ 平成28年度				
		実施方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他						
	BDO 事業実績 O 実施 V	23年度実績		24年度実績		25年度実績		26年度計画	
		—		—		・改札内のエレベータ2基及び多目的トイレ設置に係る詳細設計業務に対する補助金交付 7,357,066円		・改札内のエレベータ2基及び多目的トイレ設置工事に對する補助金交付 ・改札外のエレベータ2基設置に係る基本設計及び実施設計	
成果 (できたこと)		改札内のエレベータ2基及び多目的トイレ設置に係る詳細設計を完了した。							
課題 (できなかったこと)		工事期間中の駅利用に支障が生じないよう、JR東海と協議しながら適切にバリアフリー化工事を実施する必要がある。							
指標名称(単位)				実績値			目標値		
				23年度	24年度	25年度	26年度	28年度	
活動指標		1日当たり平均利用者数(人)			3,934	4,016	4,114	4,213	—
指標									
他市との比較検証									
C 事業コスト		単位：千円		23年度(決算)	24年度(決算)	25年度(決算)	26年度(予算)	25年度事業費内訳	
	事業費①		0	0	7,357	40,433	合計 7,357,066円		
	財源	特定財源	0	0	0	0	負担金、補助及び交付金 7,357,066円		
		一般財源	0	0	7,357	40,433			
	職員人件費②		0	0	701	1,063			
	総事業費(①+②)		0	0	8,058	41,496			
	建設事業	全体事業費(単位：千円)		0		25年度特定財源名称			
25年度迄の累積事業費		0							
27年度以降の事業費見込		0							

会計名			J R 逢妻駅駅舎改修事業	担当部	都市整備部
一般会計				担当課	都市交通課
款	項	目		担当係	運輸係
8	4	1			
C H E D C K ハ 評 価 V	各視点からの評価			評価の理由	
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> 法的業務 市民ニーズ、社会需要 市民生活上必要である など 		高い	現在、逢妻駅にはエレベーターがなく、車いす利用者が駅を利用することが非常に困難である。エレベーター等を整備することによりバリアフリー化が完了し、利用者の利便性や安全性を向上させることができる。
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> コストの節減、費用対効果 執行体制の効率性 手段の最適性 など 		高い	駅全体がバリアフリー化されることにより、駅利用者の利便性や安全性が向上し、快適に駅を利用することができると考えられる。
	妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 市が主体となって実施すべき事業であるか 総合計画との整合性 など 		高い	総合計画では、公共交通の充実の施策として、バリアフリー化や安全対策の推進を掲げている。 市民生活の利便性向上に資する事業であると考えている。
	施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> 施策への貢献度 目標達成度 市民サービスへの効果 など 		高い	逢妻駅のバリアフリー化が完了することにより、利用者の利便性や安全性が向上し、市民サービスへの効果は十分あると考えられる。
	今後の方向性			<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 終期設定 <input type="checkbox"/> 休止・廃止	
今後は、逢妻駅周辺の整備の推進及び刈谷市公共施設連絡バスの利便性を高め、公共交通の充実について検討していく。					

会計名			地方バス路線維持費補助事業	担当部	都市整備部
一般会計				担当課	都市交通課
款	項	目		担当係	運輸係
8	4	1			

PLAN 事業概要 計画	総合計画 施策体系	分野	都市環境				
		基本施策	道路・交通				
		施策の内容	公共交通の充実				
	目的	乗合バス路線を維持存続することにより、愛知教育大学学生の通学手段を確保するとともに、北部地域と刈谷駅周辺への移動の利便性を向上させる。	主たる内容	名鉄バスが運行する刈谷・愛教大線を維持するため、経常費用と経常収益の差額を補助する。			
	位置づけ	関連計画		刈谷市都市交通戦略			
			根拠法令	刈谷市補助金等交付規則			
		対象者	対象者を限定せず		事業期間	平成19年度～	
	実施方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他					

B 事業実績	23年度実績		24年度実績		25年度実績		26年度計画	
	利用者数	53,652人	利用者数	53,503人	利用者数	50,113人	利用者数	53,000人

成果 (できたこと)	北部地域の利用者代表である愛知教育大学及び運行事業者である名鉄バスと刈谷・愛教大線の将来的な位置付けについて協議を実施した。							
課題 (できなかったこと)	ダイヤ改正を実施したが、利用者数増に結び付かなかった。今後は、利用者増に向け、ハイウェイオアシスへの直接乗り入れや、公共施設連絡バスとの連携等を検討するとともに、有料のバスとしての差別化を明確に位置づける必要がある。							

指標名称(単位)		実績値			目標値	
		23年度	24年度	25年度	26年度	28年度
活動指標	利用者数(人)	53,652	53,503	50,113	53,000	55,000
指標						

他市との比較検証						
----------	--	--	--	--	--	--

C 事業コスト	単位：千円	23年度(決算)	24年度(決算)	25年度(決算)	26年度(予算)	25年度事業費内訳	
	事業費①	11,587	14,673	16,383	16,000		合計 16,383,000円
	財源	特定財源	0	0	0	0	負担金、補助及び交付金 16,383,000円
		一般財源	11,587	14,673	16,383	16,000	
		職員人件費②	718	672	666	696	
		総事業費(①+②)	12,305	15,345	17,049	16,696	
	建設事業	全体事業費(単位：千円)	0		25年度特定財源名称		
25年度迄の累積事業費		0					
27年度以降の事業費見込		0					